

## 有機畜産に関する検討会（第1回）の概要

1 日 時 平成13年8月21日（火）13：30～16：30

2 場 所 虎ノ門パストラル

### 3 議事概要

(1) 菱沼委員を座長に選出。

(2) 事務局より、「有機畜産をめぐる状況」、「有機生産食品の生産、加工、表示及び販売に係るガイドライン（骨子）」等の配付資料に基づき説明を行った後、自由討議を行ったところ、次のような意見が出された。

- ・有機農産物は有機畜産物なくしては成り立たない。有機農産物と有機畜産物の関係を検討していく必要がある。
- ・有機畜産物が海外から入ってきてからあわてて対応するようなことにならないように、国内制度について検討していく必要がある。
- ・有機畜産物の基準検討とあわせて、我が国畜産の中で、有機畜産をどのように位置付けるのかについても検討していくべきである。
- ・最近の農業は経済が先に立っているが、農業は生命産業であるという原点に立ち返るべきではないか。
- ・有機畜産物は、我が国のトレーサビリティを確立するためのきっかけになるであろう。
- ・有機畜産を行っていく上で、飼料と畜場が大きな課題となる。有機と確認された原料を使用しなければいけないことから、有機の配合飼料生産は煩雑となり、価格も通常の2.5倍になっているのが実情である。
- ・有機畜産物は、農産物とは異なってまだ流通実態が少ないため、表示制度に関して整理しやすい面がある一方で、消費者の手に渡るまでの過程が多いため、農産物にはなかったような問題があるのではないか。いずれにしろ、消費者の納得がいくような基準を作ってもらいたい。
- ・国内で対応できないような厳しい基準にすると、海外からの有機畜産物ばかりが認定されるようなことになりかねない。
- ・有機畜産物の表示制度については、国内的には消費者と生産者に受け容れられることが必要であり、国際的には調和が必要である。
- ・特別栽培農産物のような中間的な畜産物をどう評価するかが問題であり、議論していく必要がある。